

『 新 しい 未 来 へ 』

～ リライアンス (Reliance)・リフォーム (Reform)・リダウンド (Redound) ～

スリーアールオブジェクト ^{リライアンス} 【 3 R 目 標 】 消費者に 信 頼 される農産物の提供

組合員の負託に応える経営 ^{リフォーム} 改革の実践

地域社会に ^{リダウンド} 貢献する協同活動の展開

新ミレニアム（千年紀）の到来と共に、JAグループは「農と共生の世紀づくり」を経営のテーマとして大きく掲げました。新たな時代を「競争」という枠組みのみで捉えるのではなく「共生」を基本とし、安全・安心な食料の供給と農業・農村の多面的な機能の発揮により「農」が果たすべき役割が増大することを確認いたしました。ところが、現実には日本の農業生産は困難を増し、食料自給率もカロリーベースで40%に落ち込み、食料・農業そして農協の先行きには危機感が抱かれ、2003年10月第23回JA全国大会（3年に一度開催）では、「JA改革の断行」というスローガンが前掲のテーマに付け加えられました。

JA改革の取り組みは、1991年の第19回JA全国大会に端を発しております。それまで、制度的骨格としてきた慣習的な集落組織、連合組織や行政組織に依存してきた農協の系統3段階システムを見直し、原則として「自己責任経営で高度な事業機能を担える“広域合併農協”と“補完組織としての系統連合組織”の2段階システム」に大転換する改革構想が決定されました。この決定より15年という時の刻みにおいて、農協の合併構想は確実に進展し、さらに全農と県経済連の統合、全共連と県共済連の統合、農林中金と県信連のグループ化が実現いたしました。ところが、JAの組織整備は進展しているものの、経済社会のグローバル化や農業政策の方向転換は、地域経済社会及び地域農業の空洞化を引き起こし、組合員をはじめとする地域住民の暮らしに対する不安を高めることとなりました。

JAは、「組合員が出資して運営に参画し事業を利用する」という組織的結集力に支えられている協同組織であり、参加型組織である特性を生かした協同活動こそが役割であると考えております。農業やJAの経営に困難をもたらしている構造改革や規制緩和に対応することだけを考えていたのでは、JA事業は限りないスリム化と縮小路線に陥り、経営基盤さえも失いかねません。人あるいは農地等の地域資源を組織的に有効活用することにより、多様な農業を豊かに発展させ、環境に配慮した持続可能な農業生産を支えてこそ、協同組合としてのJAが存続し発展することができるのです。また、組合員とその世帯員、さらに潜在的組合員である地域住民に対し、経済面だけでなく高齢者福祉等の社会面、あるいは精神的な文化面に寄与した事業活動への取り組みと、決して営利企業の模倣や後追いではなく協同組合らしさが充分に発揮されたJA改革の断行が求められております。

そこで当JAでは、「農と共生の世紀づくり」をテーマとした断行すべき改革として、第4次中期経営計画を策定いたしました。『新しい未来へ～リライアンス（Reliance 信 頼）・リフォーム（Reform 改革）・リダウンド（Redound 貢 献）～』をスローガンとして、「消費者に信頼される農産物の提供」「組合員の負託に応える経営改革の実践」「地域社会に貢献する協同活動の展開」の3R目標（スリーアール・オブジェクト）に取り組んでまいります。